

弘前大学農学生命科学部地域環境工学科
令和6年度農業土木コース教育評議会記録案

場 所：弘前大学農学生命科学部302

日 時：令和7年3月22日（土）15：30～17：00

前回の記録の確認（資料0）

資料の通り承認された。

議 事

（1）令和7年，8年度教育評議員について（資料1－1，1－2）

資料1－1，資料1－2に基づき令和7年度，8年度の委員について説明があり，了承された。

（2）学生の学習目標達成状況（資料2－1，2－2）

資料2－1に基づき令和6年度の農業土木コース修了生19名の学習・教育到達目標，単位習得状況について説明があり，所定の修了要件を満たしていることを確認した。

資料2－2に基づいて，1年生から3年生までの面談結果及び就学状況について説明があった。入試区分で成績に差が出るかと質問があり，受験倍率によるところが大きく，総合型選抜ではできる学生とできない学生の差が大きい感触があるとの説明があった。成績不振の学生について，適切な指導で引き上げることは可能かと質問があり，丁寧な指導は心掛けているがすべての学生に対し個別の対応がうまくできていない可能性もあるとの回答があった。

（3）教育褒賞（資料3）

資料3に基づき，教育褒賞の評価点について説明があり，水理学Ⅱ・水理学演習の矢田谷先生と地盤工学・演習の遠藤先生の2名が対象となることが認められた。

（4）就職状況（資料4）

資料4に基づいて，卒業生の就職状況について報告があり，1名以外は農業土木，土木系の専門職へ進み，公務員が多いと説明があった。学生の就活方法について質問があり，全学必修のキャリア科目で1年次，3年次に自己理解やスケジュールなど一般的な就活方法を学び，3年次のインターンシップから本格化するとの説明があった。また，就職先は希望通りか？就職が決まらない学生はいるか？との質問があり，2～3名以外ほとんどが希望通りで，決まっていない学生はいないとの回答があった。

(5) その他

資料5に基づいて、2022年度継続審査について最終的な審査結果が届き、昨年度報告した通りすべて「S（満足）」評価と確定したことが説明された。

資料6に基づいて、2023年度 JABEE 認定プログラム年次報告書について説明された。

資料7に基づいて、JABEE 認定維持料の改定が決定され、大幅に値上がりすることが説明された。当プログラムの対応として大学の基金へ支出を申請中であることが説明され、情報として農業農村工学会が補助金を支援することを検討していることが紹介された。

これらの説明に対し以下のコメントや意見交換が行われた。

【外部委員】 JABEE は一次試験が免除になるので、技術士のハードルが下がることは好ましいことであり、地方国立大として研究に特化しない人材を育成することは非常に良いことである。

【外部委員】 技術者は課題解決の対応力があるので、その育成は社会にとって良いことである。

【大学教員】 企業側で、JABEE はどの程度、採用に関係するのかということが、JABEE の存在感を向上させると考えられるが、実際はどうか？

【外部委員】 若手社員は1次試験を受けると、受かるので修習技術者が絶対必要というわけではなく、JABEE を採用の要件にはしていない。一方で JABEE の学生は優秀という印象はある。

○外部委員からのコメント・自由意見

・就職は売り手市場の状況にあり、就職できない学生がいないことは、強みである。心を病んでいる方にも、手厚く指導していることは強みになる。

・本来なら授業料など学生の負担がない方が良く、研究費も手厚い方が好ましいが、実際は財源がない状況である。

・遠藤先生の論文発表や郷先生がTV出演するなど先生方の活躍が目立っている。

県庁の若手の会で話を聞いていると、若い人の方がDX等、色々と新しい状況に対応できる。若い人に任せきりにならないように一緒に様々なところで頑張っていきたい。

・土地連に来る人が少なくなっている。ハラスメント対応を含め、給与など若手の待遇改善をしているので学生に目を向けて欲しい。

・学生さんの面談や先生方同士の情報交換など、学生教育に対してのきめ細やかな対応に敬意を表します。メンタルヘルスなど昔と様変わりしており難しい状況である。

JABEE のメリットについて、最短で技術士をとって活躍していることをPR したら良いと思う。